

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 再資源化の推進	② 施策番号	3301
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 資源・エネルギー有効利用の推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	清掃課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民・事業者(排出する一般廃棄物)
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	ごみを分別、リサイクルすることで、ごみの減量化及び資源化を推進する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態か、今後どのように変化していくと考えられるか)	海洋プラスチック問題で、プラスチックごみ削減の取組みが加速する。また、ごみの減量化において、食品ロスを減らすことが重要になっている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 集団回収団体 計算式: —	団体	市民の参加を促進し、資源化に対する意識の向上。
② 集団回収量 計算式: —	t	資源化率の向上を目的。
③ 資源化率 計算式: 資源化量 ÷ 総排出量 × 100	%	ごみの減量化及び資源化。

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 集団回収団体	団体	目標値	100	87	90	89	94	—
		実績値	85	85	86	—	—	
		達成率	85.0%	97.7%	95.6%			
② 集団回収量	t	目標値	1,000	957	997	850	902	—
		実績値	919	838	827	—	—	
		達成率	91.9%	87.6%	82.9%			
③ 資源化率	%	目標値	16	16	16	16	16	—
		実績値	14.4	14.1	13.9	—	—	
		達成率	90.0%	88.1%	86.9%			

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	3R推進事業	集団回収率	%	30	30	31	17,916	16,596	18,454	A	ア	◎
2	ごみ収集事業	1人1日のごみ排出量	g	498	504	497	345,931	325,440	351,841	A	ア	○
3	塵芥収集管理・整備事業	修理件数	件	73	98	78	49,319	31,795	42,814	A	ア	
4	清掃庁舎管理事業	巡回、警備報告書	件	12	12	12	15,187	11,453	11,664	A	ア	
5												
6												
7												
8												
計	4						428,353	385,284	424,773			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	3Rを推進することで、ごみ減量、資源の再利用を図り、循環型社会の構築に取り組む。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	集団回収の活動団体は横ばいで推移し、回収量及び資源化率も減少しております。平成30年度は台風21号の停電による可燃ごみ増加が資源化率を減少させたと考えますが、再資源化を推進するためには、集団回収量や分別収集量などの増加が重要であることから、方策について検討を行い、周知・啓発に努めます。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	一般廃棄物処理は、市町村の責務である。市民、事業者がその立場で役割を分担し、相互の協力連携を図ることが重要である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	廃棄物処理法第6条第1項の規定により作成した、一般廃棄物処理計画に基づき、適正に処理を行っている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	3Rを推進することで、1人1日のごみ排出量を減らし、ごみの総排出量を削減することで、ごみ減量化及び資源化に努め、集団回収の拡充に取り組む。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	台風21号の影響もあり、前年度より集団回収や資源化率が減少しておりますが、引き続き、再資源化の推進と集団回収の拡充について周知・啓発を行う。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	泉南市ウェブサイトや広報での周知方法を検討する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	市指定ごみ袋で、集団回収やごみ分別について周知することを検討する。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	市民の視点にたった収集体制を検討し、ごみ排出を容易にすることで、分別排出を促進する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	台風21号による影響もある中、集団回収量及び資源化率については微減にとどまっており取組が適切に行われている。 事業者を含めたごみの減量化及び再資源化への周知・啓発を引き続き進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある